

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

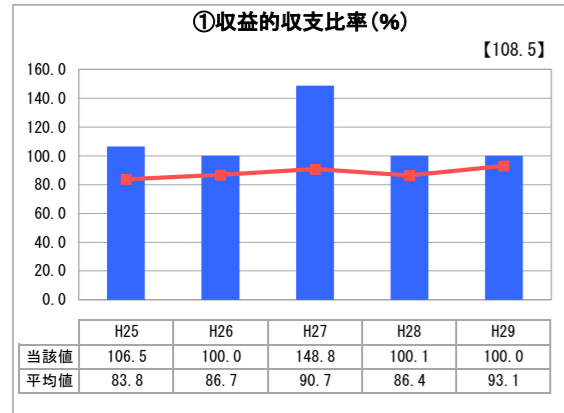
兵庫県香美町 ファミリーイン今子浦

業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	観光施設事業	休養宿泊施設	A1B1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	建物延面積(m <sup>2</sup> )	宿泊定員数(人)	
該当数値なし	該当数値なし	2,149	86	

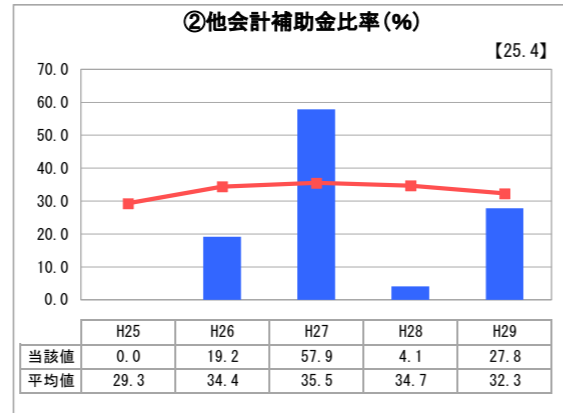
客単価(円)	指定管理者制度の導入	インターネットによる予約割合(%)
2,744	代行制	47.0
バリアフリー法の基準適合性	トイレ洋式化率(%)	Wi-Fi設置
無	53.8	有

グラフ凡例	
■	当該施設値(当該値)
—	類似施設平均値(平均値)
[ ]	平成29年度全国平均

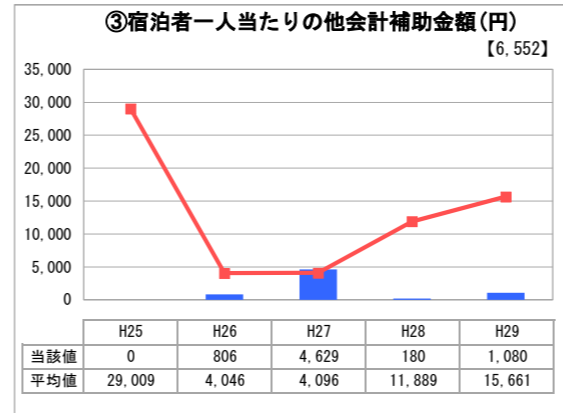
## 1. 収益等の状況



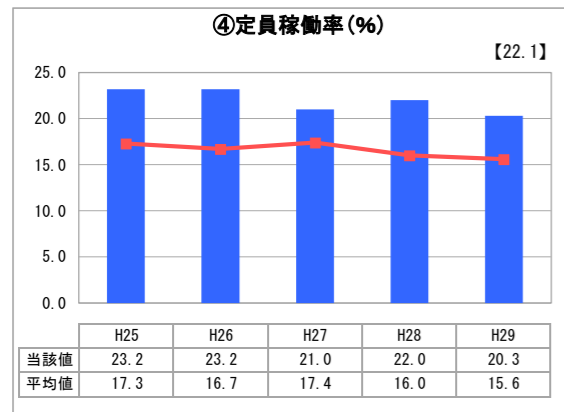
「経常損益」



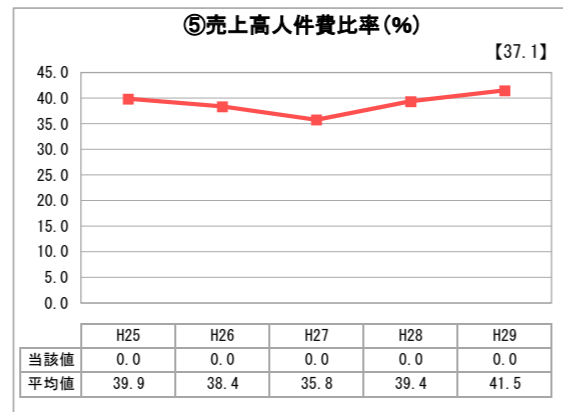
「他会計補助金割合」



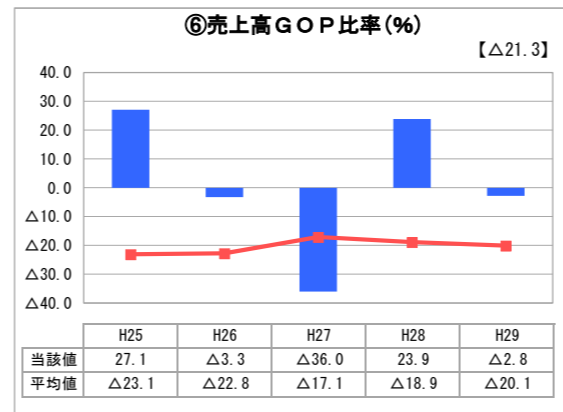
「他会計補助金額」



「施設の効率性」

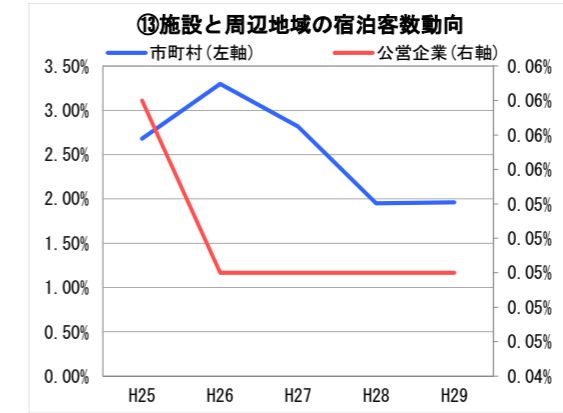


「人件費負担」

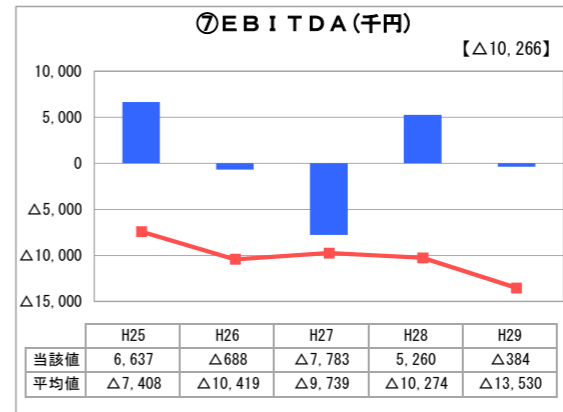


「売上高に対する営業総利益」

## 3. 利用の状況



「都道府県延泊者数に対する割合」



「減価償却前営業利益」

## 2. 資産等の状況

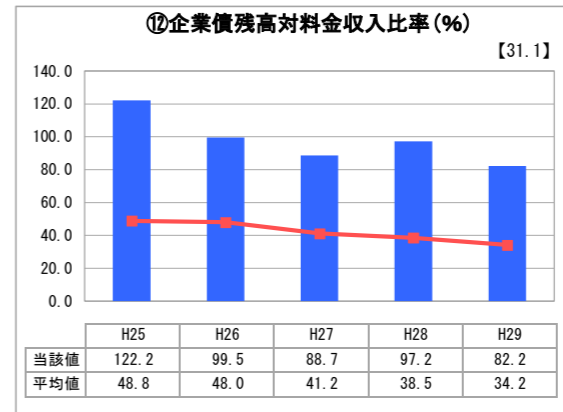


「施設全体の減価償却の状況」

⑨施設の資産価値(千円)	95,381
⑩設備投資見込額(千円)	0



「累積欠損」



「債務残高」

## 分析欄

**1. 収益等の状況について**  
過去5年間に於ける収益的収支比率は100%を超えて推移している。  
しかし、平成26年度以降は他会計補助金（一般会計繰入金）が発生しており、この要因は老朽施設の改修にかかる起債償還金や修繕料の財源充当のためである。特に平成27年度は施設修繕費に充てるため依存度が高くなっており、事業として独立採算が行えていない状況にある。  
売上高GOP比率、EBITDAにおいては平成27年度以外は一定程度の健全性を確保できているが、本事業の継続を考えると、経営改善による収益率の向上が急務である。

**2. 資産等の状況について**  
昭和63年の建設から約30年が経過しているため、施設の資産価値は漸減している。  
住民生活の福祉の向上と健康増進に寄与するとともに、誰もが低廉で快適に利用できる休養宿泊施設の設置・運営を行うという本事業の目的を考慮すると、本町の観光振興をはじめとする各種施策を踏まえながら老朽化対策やリニューアルの必要性が認められる。  
現時点で多額の設備投資は見込んでいないものの、観光需要を予測した施設の充実を図る必要がある。しかし、企業債残高対料金収入比率は減少傾向とはいわゆる高位で推移していることから、真に必要な改修を見極め、最小の投資で一定の効果を生み出す努力が必要となる。

**3. 利用の状況について**  
過去5年間に於ける本町の宿泊客数動向は平成26年度以降低下しており、本事業においても平成25年度以降低位にある。  
これは本事業を含む本地域全体において宿泊需要が厳しい状況にあることに加え、団体旅行から個人旅行への嗜好の変化、地域の観光客数の動向等、観光を取り巻く様態が変化してきたことによるものと考察する。  
今後インバウンドやインターネットの利活用による誘客のほか、観光資源は一つの行政区で完結するものではないことを踏まえ、本施設を含めた地域全体の魅力向上のための連携も必要であると同時に、本事業の目的に縛られず、例えば、合宿誘致や各種会合等への空室貸し出し等、施設の多目的な解放も検討する必要がある。

**全体総括**  
見かけ上の収益は確保できているが、他会計に依存しており、この脱却が急務である。  
加えて、地域住民や観光客のニーズの分析によりできる限り正確な需要予測に基づいて、過大な投資を避けながらも施設の充実を図る必要がある。  
その際には財政当局や関係者と協議を重ねながら、本事業の継続運営が図られるよう財源の確保や起債償還の方法を検討し、収支赤字額を安易に他会計に依存することがないよう計画することが必要である。  
さらに、民間事業者への影響を踏まえながらも協力を図り、本施設が観光目的だけでなくコンベンション機能など地域住民にとって多目的に活用されていることを鑑み、本事業に対して広く理解を求める努力を継続しなければならない。